

言語聴覚療法 (ST)

何らかの原因で聞こえやことば、飲み込みに障害を持つ人に対して、生活に必要なコミュニケーション能力やスムーズな飲み込みができるよう、訓練・指導・援助を行います。



急性期・2016年入職
言語聴覚士

チーム医療を実践

入職したころは、臨床現場で他職種との連携が思うようにとれませんでした。チーム医療を実践する中で人間関係に悩むこともありましたが、でも、相手への伝え方を工夫するなど、少しずつ改善していき、病棟と一緒にチーム医療を実践できるようになりました。他職種間のコミュニケーションの大切さを学ぶことができました。

これからはSTとして自身のスキルを磨いていきたいです。医療の世界はエビデンスも日に日に進歩しており、STも呼吸リハビリができるようになりました。知識・技術ともに勉強していきたいです。



回復期/急性期・2014年入職
言語聴覚士

食べることは生きること

STとして様々な経験を積んだ現在、表面に出ている現象や障害だけを対象にするのではなく、患者様の人生において「STとして何ができるか」を考えられるようになりました。それを踏まえ、今後はSTとしての幅を広げたいです。食べることは生活の一部であり、大きな意味を持っています。「食べること＝生きること」でもあり、倫理的・哲学的に考えていきたいです。

東神戸病院は人が優しいです。医師は親しみやすく、医療人として尊敬できる方ばかり。セラピストは優しくて懐の深い人が多いです。男女問わず子育てママさんに対する理解があり、子育てしながら働きやすい環境だと思います。

患者様は強い!!

約30年の臨床経験を重ね、今は患者様と時間を共有している瞬間が大事だと感じるが増えました。

患者様を「守らなくてはいけない存在」と思っていたのですが、実は強いことに気付かされました。両片麻痺で嚥下障害と構音障害があった患者様。焼鳥店を営む彼女に、コミュニケーションツールとして文字盤を作りました。退院後、新しい調理器具を購入する際、文字盤を使って「ま」「け」「て」と値切ったところ、なんと1000万円を700万円にして貰ったとか。聞けば、構音障害をも強みにした、したたかな戦略だったそう。たくましいですね。それに、私が作った文字盤がこんなところで役立つなんて、嬉しかったです(笑)。



回復期・1987年入職
言語聴覚士